

主 題	ともに生きる(よりよい社会の実現)	題 材	手で話すことの楽しみ
目 標	さまざまな立場の存在に気づかせ、思いやりの気持ちをもって、だれもが同じ人間としてよりよく暮らせる社会を築く態度を養う。		
	主な学習活動	指導上の留意点(カウンセリングの視点)	
導 入 10分	<p>1 本時のねらいを説明する。</p> <p>言語でなく非言語的表現で相手に自分の思っていることを相手に伝えるためには、どうすればよいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの取り方を考えさせる。(いっさい言葉を発しない状況で自分の思っていることを伝えることを意識させるようにする。) 	
展 開 30分	<p>2 . ジェスチャー・ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人でシェアリング ・ 全体でシェアリング <p>3 . 資料を読む。</p> <p>筆者は、実際に手話をやってみて、どう感じたか。</p> <p>聴覚障害者にとって、手話を使うことは、どんな意味があると思うか。</p> <p>筆者は、手話をとおして、どのようなことを学んだのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声に出したり、紙を使わずに相手に伝えるようにすることを確認して始めさせる。 ・ お互いにどんな感想を持ったか振り返らせる。 ・ 全体での振り返りをする。 ・ 朗読テープを利用する。 ・ 「楽しい気持ち」「上手に話をできるようになりたい」という前向きな思いに着目させる。(グループを作り、お互い自分の意見を発表しあう) ・ 伝達的手段だけでなく「とてもうれしかった」「気軽に買い物ができる」といった情意面に着目させる。 ・ 立場を変えて考えることが意外に難しいことに気づかせる。(グループでの意見を発表させる) ・ 手話の楽しさに始まり、障害のある人たちの気持ち、思いやる心、奉仕の精神、差別のことなど、多くのことを学んだことを気づかせる。(グループでの意見を発表させる) 	
終 末 10分	<p>4 . 本時の授業についてのシェアリングをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通して、感じたこと、考えたことを振り返らせる。 ・ グループや学級全体で感想を話し合わせることで、他者理解を促す。 	
実 践 の 考 察	<p>ジェスチャー・ゲームを行ったことで、生徒の学習意欲を高めることができた。非言語的表現で、気持ちを伝えることの難しさを体験することにより、本時の題材への関心を高めることができた。グループでの話し合い活動により、活発に自分の意見を発表することができていた。また、他人の意見を聞くことにより、学習内容を深めることができた。授業についてのシェアリングでは、グループ活動の際に、気持ちが浮ついたのがよくなかったという素直な反省や、聴覚障害者の立場からの建設的な発言があるなど、意欲をもって取り組めたようであった。</p>		